

2019年8月5日～7日、東京集会講座によせて

ミヒャエル・デーブス

人間の“からだ”には二重の秘密が隠されています。**外的な“からだ”**はまず、感覚的な肉体であり、それは老いと病と死の法則に従っています。これに対して“からだ”には**内的な秘密**があり、それは血液の本質と結びついているのです。血液は人間が傷ついたときにだけ外的な感覚的知覚の対象となりますが、それ以外は内的なものでありつづけ、新しい生命力の源泉となっています。そのようにして「体と血」には過去と未来、死と生成が入り込んでいるのです。この“からだ”をもつということの秘密を理解することは、キリスト教の秘儀を理解する出発点となるのです。



ミヒャエル・デーブス氏 略歴

1943年ドイツ生。大学で数学、物理学、哲学を、キリスト者共同体司祭養成ゼミナールで神学を学び、69年司祭就任。1978年～2007年ゼミナール教授として司祭養成・多くの日本人学生の指導にあたった。2018年までドイツ・ミューリンゲン集会として活動、引退後はキリスト者共同体や人智学の講演者として、広くドイツ国内や世界各地で講演、講座活動を行っている。宗教と医学、教育など他分野との協力活動にも積極的で、著作多数：「物質と光」、「コンピュータに“攻撃”される人間」、「信仰と認識」、「人智学とキリスト教会の改新」、「天使体験」、「マリア・ソフィア」、「人生における復活の力 —キリスト者共同体サクラメント論」など。最近では日本、韓国などでの講演、講座活動を毎年行い、アジア文化に深い関心を寄せているほか、日本ではシュタイナーの神秘劇上演にも力を注いでいる。

キリスト者共同体について

キリスト者共同体は、1922年に中部ヨーロッパで開始されたキリスト教運動です。創立にあたって、人智学（アントロポゾフィー）の創始者であるルドルフ・シュタイナーの大きな助力を得ています。日本では2000年6月から正式に活動を開始し、現在、東京と大阪に二つの集会（教会）があり、また札幌には定期的に司祭が訪問する準備会があります。

キリスト者共同体は自由な精神を大事にします。そのため特定の教義やドグマを設けず、新しい礼拝と儀式（サクラメント）の実施を活動の中心におき、現代にふさわしい宗教活動を創造することを目指しています。

キリスト者共同体の儀式、講演、講座などの主要な活動には、一般の方でも自由にご参加になれます。

